

令和6年度 学校関係者評価

高知県立幡多看護専門学校

1. 日時：令和7年6月12日 10:00～14:15
2. 場所：幡多看護専門学校 校長室
3. 学校関係者評価委員
 - 1) 幡多けんみん病院 経営事業部長
 - 2) 幡多けんみん病院 看護部長
4. 高知県立幡多看護専門学校 出席者
 - 1) 副校長
 - 2) 事務長
5. 評価対象：令和6年度 重点項目の取組状況
6. 資料：1) 学校関係者評価委員会実施要領 2) 自己評価書 3) その他関係資料
7. 評価基準：4段階評価及び総評
 - 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
 - 3：達成できている（達成がみられる）
 - 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられていない）
 - 1：全くできていない（全く成果がみられない）

評価基準：4段階評価及び総評

- 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
- 3：達成できている（達成がみられる）
- 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられていない）
- 1：全くできていない（全く成果がみられていない）

評価結果

1 地域に貢献できる質の高い看護師の養成をめざす		自己評価	他者評価
①各学年に必要な学習支援と学習集団の形成支援		3	4
②効果的な臨地実習を実施		4	4
③17期生の看護師国家試験受験者が全員合格		4	4
④高知県の医療・看護を担う学生の確保（県内定着率 80.0%）		2	3
自己評価	<p>①支援チーム体制を継続し、各学年に応じた対応を行った。又各学年、個々の学生の特徴を職員間で共有しながら学習支援・生活支援を行った。しかし、3年生4名が実習による合格点が取得できず留年となった。</p> <p>②新型コロナウイルスが5類に移行したことから、病院・施設・地域など各実習先に合わせた対応を行い、ほぼ予定通りの実習を実施することができた。</p> <p>③4月からチューター制をとり学習に対しての個別指導やメンタル面での関わりを行った。又、3年の担任により改めて学習方法を伝授し講義形式の学習会を実施し、暗記ではなく理解をする学習ができた。卒業生23名全員が国家試験に合格することができた。</p> <p>④幡多地域の病院紹介や就職面談を定期的実施したが、県内の就職率は73.9%と目標の80%に達することができなかった。</p>		
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・貴校の最大の売りである「合格率100%」「安い学費」「奨学金制度あり」をもっと前面に出すことで、生徒の確保に繋げてほしい。 ・貴校の特徴として、愛媛県からの学生も受け入れていること、卒業時点での各病院の募集とのマッチング、等を考えると、県内定着率80%はハードルが高いように思われる。 		

2 教員の教育力の向上を図る		自己評価	他者評価
①教員の研修を計画的に実施する		3	3
②研究授業を実施する（各教員1回/各教員が次年度に新たな授業を担当できる）		3	3
③同一科目を複数の教員で担当し、学習効果を高めお互いの教育技法を学ぶ		4	4
自己評価	<p>①計画した研修は実施できたが、教員間で話し合う機会をもつことはできなかった。参加を目的にするのではなく、研修で得られた事を実践し、評価できる仕組みが必要である。</p> <p>②全員が実施することはできなかったが、他者の授業を見学することは自身の授業の振り返りにもなり学ぶ点が多くあった。互いに学び成長できる機会にもなるため今後も継続していく。</p> <p>③研究授業と合わせて、複数の教員で同一科目を担当することにより、次年度に主担当としてその科目を担当する準備ができた。</p>		
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数にゆとりが無い状況で日々の業務に精一杯となっていないか。日々に精一杯のため、他職員の授業見学まで手がまわらないのではと思われる。 ・一方で、自身の業務のあり方をふりかえるには、他職員との比較がもっとも現実的な方法でもあるので、時間が無い中で大変とは思いますが、その機会を設けるよう工夫いただきたい。 		

3 適正な学校経営・管理を実施する		自己評価	他者評価
①自己点検・自己評価により抽出された主要課題については改善計画に基づき実施していく(自己点検・自己評価委員会)		3	3
②新カリキュラムの意図を全教員が理解し、適宜シラバス・実習要綱の修正を行う		3	3
③超過勤務時間を昨年度より10%削減を目指し、事務部門との連携・ICTを活用した管理システム化の検討を行う		3	4
④防災訓練・防災マニュアルの周知(安否確認システムの訓練で学生・職員ともに100%返信ができるようにする)		3	4
自己評価	<p>①自己点検・自己評価について全項目の評価を実施した。(別紙資料あり)</p> <p>②授業については、大きな課題はなかった。シラバス・実習要綱については、各担当を決め追加・修正を行った。令和6年度は、1年次から3年次まで新カリキュラムでの実施であったが、大きな問題はなかった。今後検証するために、卒業生からのアンケート調査など何らかの評価が必要と考える。</p> <p>③超過勤務時間の削減を行うことはできなかった。事務部門と連携しICTを活用した管理システム導入を試みている。次年度は可能な事からICT化を行い業務の簡素化に取り組んでいく。</p> <p>④職員による机上訓練を実施した。災害時の安否確認については、当校が導入しているシステムを活用し実施した。しかし、100%の返信率には至らずメールの確認ができていないケースもあった。引き続き、定期的に安否確認の訓練を行い、日頃から災害を意識した行動がとれるように取り組んでいく。安否確認訓練は、今後も計画的に実施していく。</p>		
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・①②について、点検によるふりかえりが最も現実的であり、今後も取り組んで欲しい。 ・②について、業務簡素化は是非進めて欲しい。特に、公的機関はムダが多く前例踏襲的な業務になりがちのため、見直すべき点は見直すことは大事と考える。 ・③について、安否確認100%は高い目標ではあるが、有事の際、効率的な職員・生徒の安否把握がその後の本来業務(災害時活動)に大きく影響することを、個々への周知徹底が望まれる。(けんみん病院ではALSOKとLINEグループの併用での把握も実践しており、簡易な指示等はLINEのほうが手っ取り早いというメリットもある) 		